



🌿 調査研究の舞台裏を展示する

奈良文化財研究所には、「環境考古学研究室」という研究室があります。「環境」も「考古学」も一般的な用語ですが、「環境考古学」は耳慣れない言葉かもしれません。この研究室では、遺跡から出土した動物の骨や貝等の調査研究をしています。

遺跡から出土する骨は、当時の生き物の様子を語るだけではありません。骨に残された傷跡等からは、昔の人が動物をさばいていた道具や調理法等、生き生きとした人々の営みを読みとれます。環境考古学研究室では、このような骨から歴史をあきらかにするための調査研究をおこなっているのです。

奈文研の調査研究の現場は、普段はほとんど公開されていないため、どのような過程を経て、研究成果が導かれているのか見えにくいのが現状です。しかし、この調査研究の過程にこそ、研究のおもしろさや奥深さが隠れているのです。

そこで飛鳥資料館では、4月から、環境考古学研究室の調査研究の舞台裏にスポットを当てた「骨ものがたり－環境考古学研究室のお仕事」という展覧会を開催します。本展覧会では、研究室でおこなっている基本的な調査過程を6つのステップに分けて、その仕事の内容や技術等を紹介します。実

際に研究で取り扱ってきた出土資料や骨格標本を見ながら、研究員がどのように資料と向き合い、歴史を解明していったのか、その視点や手法がわかる展示です。

今回の展示で特にこだわっているのが、展示会場内のデザインです。会場には研究室の机や骨格標本の保管庫を再現して、研究室の空間を体感していただけるようになっています。大量の標本が並ぶ研究室は、「考古学」のイメージからは少し意外に感じられるかもしれませんが、この標本も、全国の研究者が利用する貴重な資料なのです。また、5月10日・17日の「研究員を展示！」では、展示室で研究員が実際に調査研究します。研究の様子がわかる絶好の機会です。

さらに、本展覧会のために撮影した、調査・研究現場の写真も見どころの一つです。研究員の視点を意識しながら、研究室の日常が伝わるような写真を多数用意しました。これらの写真からも、環境考古学の研究のおもしろさや魅力を感じていただきたいと思っています。会期中には、本物の骨や骨格標本を使ったイベント「体験！研究員のお仕事」も開催します。ぜひ、この機会に飛鳥資料館へお越しください。（展覧会の会期等は本号8頁をご覧ください。）（飛鳥資料館 小沼美結・西田紀子）



研究室の骨格標本の保管庫



出土したマグロの骨と標本の比較作業